

5) 中期妊娠中絶の実態

(社)東京都教職員互助会三楽病院産婦人科 木村好秀

はじめに

現在、妊娠中期の人工中絶とは妊娠12週から22週未満までの中絶を指すが、これは近年の周産期医療の進歩と新生児集中治療施設の充実により、胎児生存限界が著しく改善したため、平成3年1月1日より、これ以降の中絶は許されなくなった。

一般に、妊娠中期は全妊娠経過のなかで最も安定した時期であり、この時期の人工妊娠中絶は子宮筋の薬物感受性、子宮頸管の未熟性をはじめ、軟産道の損傷、感染、出血、精神的損傷や経済的負担など多くの問題を抱えている。しかし、この様に中絶処置に際して種々の困難性や危険性を伴う妊娠中期の実態は、なお不明の点が多い。

そこで今回、中期妊娠中絶の実態を検討し、2、3の知見を得たので報告する。

1. 調査対象・調査方法

調査対象は、平成元年1月1日より平成6年12月31日までの6年間に、都心より30km圏の東京近郊の診療所において、中期妊娠中絶を施行した100例である。

なお、中絶法は入院後ラミナリヤ桿を挿入、抜去後にメトロ挿入（内容200ml前後）を行ない、これを500gで牽引した。メトロの脱出後にプレグランディン（PGE1）膈坐薬を3時間毎に挿入した。胎児娩出後は、全例に子宮内容清掃術を施行した。

調査方法は、対象者の診療録の記載事項から必要項目を集計して分析した。

2. 調査成績

1) 中期妊娠中絶の頻度

調査期間における全人工妊娠中絶数は977例で、そのうち中期中絶は100例で10.2%を占めた。平成元年より3年までは474例中46例（9.7%）、平成4年より6年までは503例中54例（10.7%）で中期中絶が一定の頻度で推移していることが明らかとなった。

2) 対象患者の分布

中期中絶例100例の内訳は、未婚女性77例（77.0%）、既婚女性19例（19.0%）、離婚女性4例（4%）を占めていた。また、世代別では20歳代が58例（58.0%）を占め、次いで10歳代27例（27.0%）、30歳代11例（11.0%）、40歳代4例（4.0%）の順であった。

更に、未婚女性のなかで10歳代の中期中絶例は35.1%を占め、著しく高率であった。

3) 年齢

未婚女性77例の年齢は16歳から43歳で、平均 21.5 ± 4.3 歳であった。既婚女性19例の年齢は20歳から42歳で、平均 31.1 ± 6.9 歳、離婚女性4例の年齢は24歳から31歳で平均 27.8 ± 3.3 歳であった。

パートナーの年齢は、未婚女性77例では34例（44.2%）のみで明らかで、平均 23.7 ± 5.4 歳であった。既婚女性19例では、パートナーつまり夫の年齢はすべて明らかで、平均 34.8 ± 6.8 歳であった。離婚女性4例ではパートナーの年齢は3例（75%）で明らかで、平均 30.7 ± 7.5 歳であった。

4) 職業

未婚女性77例の職業は、会社員32例（41.6%）、学生14例（18.2%）、接客業10例（13.0%）などの順であった。またパートナーの職業は、不明と記載され特定できなかったものが44例（57.1%）を占め、職業の明らかなものでは、会社員10例（13.0%）、店員7例（9.1%）学生4例（5.2%）、次いで工員、運送業、自営業、無職が各2例（2.6%）で、その他が4例であった。

既婚女性19例の職業は主婦14例（73.7%）、会社員3例（15.8%）などの順であり、パートナーつまり夫の職業は、会社員12例（63.2%）、建築業3例（15.8%）、運送業2例（10.5%）、公務員と調理師が各1例（5.3%）であった。

離婚女性4例の職業は無職3例（75%）、パート1名（25%）であり、パートナーの職業は、会社員、建築業、スナック、不明がそれぞれ1名ずつであった。

5) 既往妊娠中絶と既往分娩

既往妊娠中絶のある者は、未婚女性では77例中15例（19.5%）、既婚女性では19例中7例（36.8%）であり、離婚女性では4例中2例（50.0%）に認め著しく高率であった。

一方、既往分娩のある者は、未婚女性では77例中2例（2.6%）、既婚女性では19例中15例（78.9%）、離婚女性では、4例中全例にみられた。

なお、10歳代の妊娠の既往は27例中4例（14.8%）で、全てが中絶の転帰をとっていた。また、20歳代の妊娠の既往は12例（25.0%）で、10例（20.8%）は中絶していたが、他の2例は分娩1例、自然流産1例の転帰をとっていた。

6) 中絶時の妊娠週数

調査対象全体の中絶時の平均妊娠週数は 17.0 ± 2.9 週（12.4~22.7週）であった。未婚女性では平均 17.3 ± 2.9 週、既婚女性では平均 16.3 ± 2.2 週、離婚女性では平均 15.5 ± 3.6 週であり、未婚女性に妊娠週数の延長がみられた。

また、年代別では、20歳代前半が平均 17.5 ± 2.8 週で最も週数が長く、30歳代後半が、 16.1 ± 1.0 週で短かった。

なお、既往に妊娠、分娩、中絶のみられたものについて、今回の中絶時期の妊娠週数

について検討したが、それらの既往の間にいずれも差は認められなかった。

7) 中絶の所要時間

前述した中絶の方法により、胎児が娩出されるまでの中絶の所要時間を検討すると、調査対象全体の所要時間は、平均47時間11分±21時間58分であった。未婚女性では47時間30分±20時間26分、既婚女性では41時間00分±15時間19分、離婚女性では70時間28分±21時間58分であった。なお、離婚女性に所要時間の延長が見られたのは例数が少ないにもかかわらず、メトロイリントル脱出までに長時間を要した症例があったためと思われる。

中絶所要時間は、今回の調査では既往に妊娠・分娩・中絶を1回経験しているものにその中絶所要時間の短縮傾向が認められた。

8) 平均入院日数

調査対象全体の平均入院日数は4.0±1.2日であった。未婚女性では平均4.0±1.1日、既婚女性では3.6±1.5日、離婚女性では4.3±2.6日であった。離婚女性に入院日数の延長が見られたのは、中絶処置による胎児娩出までに他より長時間を必要としたためと思われる。

9) 胎児体重・性別

調査対象全体の中絶時の胎児体重は平均2160±173.2gであった。

性別が確認された95例のうち男児は63例(66.3%)、女児は32例(33.7%)であり、男児の比率が高かった。なお、16週未満では男児33例(89.2%)、女児4例(10.8%)であり、16週以上では男児30例(51.7%)、女児28例(48.3%)となっており、妊娠16週未満では性比が男児において著しく優勢であった。

まとめ

わが国の人工妊娠中絶数は減少傾向にあるが、平成5年の総中絶数386,807件で、そのうち中期中絶は6.0%を占めている。今回、調査対象とした東京都近郊の診療所では6年間に977例の人工妊娠中絶が行なわれ、そのうち中期中絶は100例(10.2%)を占め、全国平均を上回っていた。

中期中絶100例中に未婚女性が77例(77%)を占め著しく高率を占めていた。また年齢は16歳から43歳までの平均21.5±4.3歳であり、10歳代は27例(35.1%)を占め高率であった。

現在、中期中絶にプレグランディン(PGE1)膣坐薬の使用が可能となり、従来より手術処置の侵襲は軽減したが、これらの処置には医学的、社会的、経済的に多くの問題が残されている。そこで今後、この中期中絶を低下させる方策が必要である。そのた

めには学校や社会において、具体的で確実な避妊法を含めた適切な性教育を実施し、希望しない妊娠の帰結としての人工妊娠中絶を減少させることが重要である。そして、全ての妊娠は希望された児として生命を享受することが、今後の理想的な家族計画の確立に重要な課題であると思われる。

この調査方法は診療所の診療録の記載事項より得られた資料であり、前方視的に中期中絶に至る社会医学的な立場での検討成績ではない。そこで今後さらに中期中絶の問題点を明らかにしていくため、面接やアンケートにより調査をしていく必要がある。

中期妊娠中絶の頻度

	中絶総数	中期中絶数	頻度 (%)
平成1年	157	16	10.2
平成2年	165	12	7.3
平成3年	152	18	11.8
平成4年	141	11	7.8
平成5年	178	17	9.6
平成6年	184	26	14.1
合計	977	100	10.2

年齢

	本人	相手
総平均年齢	23.6±6.1歳(n=100)	27.9±7.9歳(n=56)
未婚女性	21.5±4.3歳(n=77)	23.7±5.4歳(n=34)
既婚女性	31.1±6.9歳(n=19)	34.8±6.8歳(n=19)
離婚女性	27.8±3.3歳(n=4)	30.7±7.5歳(n=3)

職業

未婚女性 (77例)

	会社員	学生	接客業	教員	無職	その他
例数	32	14	10	5	8	8
%	41.6	18.2	13.0	13.0	6.5	10.4

既婚女性 (19例)

	主婦	会社員	その他
例数	14	3	2
%	73.7	15.8	10.5

人工流産の既往

人工流産の既往	無し	有り	1回	2回
未婚女性	62	15	12	3
既婚女性	12	7	5	2
離婚女性	2	2	1	1

年代別手術時の妊娠週数

10歳代	17.0±3.0週 (12.6から21.1週)	n = 26
20歳代 前半	17.5±2.8週 (12.7から22.1週)	n = 40
20歳代 後半	16.5±3.2週 (12.4から22.7週)	n = 18
30歳代 前半	16.2±2.3週 (12.7から20.0週)	n = 8
30歳代 後半	16.1±1.0週 (15.3から17.3週)	n = 3
40歳以上	17.5±3.0週 (14.0から20.0週)	n = 4

中期中絶における手術の所要時間

全症例	47時間11分 ± 21時間58分	n = 99
-----	-------------------	--------

未婚女性	47時間30分 ± 20時間26分	n = 76
既婚女性	41時間00分 ± 15時間19分	n = 19
離婚女性	70時間28分 ± 21時間58分	n = 4

妊娠無し	48時間20分 ± 21時間49分	n = 64
妊娠1回	41時間40分 ± 11時間10分	n = 14
妊娠2回以上	47時間21分 ± 27時間31分	n = 21

分娩無し	46時間53分 ± 20時間27分	n = 78
分娩1回	37時間36分 ± 11時間15分	n = 6
分娩2回以上	52時間35分 ± 30時間59分	n = 15

中絶無し	47時間48分 ± 20時間41分	n = 76
中絶1回	40時間45分 ± 15時間02分	n = 17
中絶2回以上	57時間32分 ± 45時間08分	n = 6

平均入院日数

全症例	4.0±1.2日 (2日から8日)	n = 100
-----	-------------------	---------

未婚女性	4.0±1.1日 (2日から7日)	n = 77
既婚女性	3.6±1.5日 (2日から7日)	n = 19
離婚女性	4.3±2.6日 (2日から8日)	n = 4

胎児体重と胎盤重量

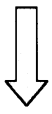
	平均胎児体重	平均胎盤重量
全症例	216.0±173.2g (12-714g) n=98	163.1± 77.6g (40-576g) n=89

胎児の性別

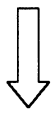
	男児	女児	計
全症例	63 (66.3%)	32 (33.7%)	95

30歳未満	53 (66.3%)	27 (33.7%)	80
30歳以上	10 (66.7%)	5 (33.3%)	15

16週未満	33 (89.2%)	4 (10.8%)	37
16週以上	30 (51.7%)	28 (48.3%)	58



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



はじめに

現在、妊娠中期の人工中絶とは妊娠 12 週から 22 週未満までの中絶を指すが、これは近年の周産期医療の進歩と新生児集中治療施設の充実により、胎児生存限界が著しく改善したため、平成 3 年 1 月 1 日より、これ以降の中絶は許されなくなった。

一般に、妊娠中期は全妊娠経過のなかで最も安定した時期であり、この時期の人工妊娠中絶は子宮筋の薬物感受性、子宮頸管の未熟性をはじめ、軟産道の損傷、感染、出血、精神的損傷や経済的負担など多くの問題を抱えている。しかし、この様に中絶処置に際して種々の困難性や危険性を伴う妊娠中期の実態は、なお不明の点が多い。

そこで今回、中期妊娠中絶の実態を検討し、2、3 の知見を得たので報告する。